

児童発達支援・放課後等デイサービスに関するアンケート調査結果（概要）

1. 趣旨目的

「第2期神戸市障がい児福祉計画」の策定にあたって、障害児通所支援サービス（児童発達支援・放課後等デイサービス）の利用状況や利用意向について、必要な見込量を算定するとともに、障害児施策の推進に向けた課題や今後の支援策を検討するため、利用に関するアンケート調査を行った。

2. 調査対象

(1) 児童発達支援に関するアンケート

市内の認定こども園、保育所（園）、幼稚園で障害児保育の対象児

(2) 放課後等デイサービスに関するアンケート

神戸市立小・中学校特別支援学級、市立特別支援学校の在籍者

3. 実施方法及び調査期間

実施方法：各施設やこども家庭局、教育委員会の協力により、各施設から保護者へ配布。

返信用封筒にて郵送で回収。

調査期間：令和2年7月15日～令和2年8月14日

4. 結果概要

(1) 児童発達支援に関するアンケート

- ・対象者 914 人、回答数 437 人、回答率 47.8%
 - ・回答者のうち、知的な発達の遅れがある者が最も多く（312 人、71.4%）、次いで発達の偏りがある者が 248 人（56.8%）であった（重複あり）。
 - ・障害者手帳の取得状況については、身体障害者手帳所持者は 42 人（9.6%）、療育手帳所持者は 185 人（42.3%）、精神保健福祉手帳は 0 人であった（重複あり）。一方で、半数以上の 52.9%が手帳を所持していない。
- ① 児童発達支援を利用しているのは 54.7%（239 人）で、1 人あたりの利用日数は 2.1 日／週。
- ・現在の利用については満足していると回答した者が多い（234 人、97.9%）。利用希望日数は現状通り（207 人、86.6%）が最も多く、小学校入学前まで継続したいと回答する者も多かった（195 人、81.6%）。
- ② 利用していない者のうち、利用希望があるのは 119 人（66.5%）。
- ・利用していない理由としては、「保育所等で支援が受けられる」が最も多く（102 人、57.0%）、次いで「保育所等との併用は子どもにとって体力的に負担」が多い（34 人、19.0%）。「利用のしかたが分からない」という回答も一定数見られた（29 人、16.0%）。（複数回答）
- ③ 保育所等訪問支援については、制度を知らない者が多い（268 人、61.3%）が、47.4%が利用してみたいと回答した。
- ・障害児相談支援事業についても、事業を知らない者が多い（320 人、73.2%）が、約 35%が利用して

みたいと回答した。

- ・子どもの発達についての相談先は、家族・親族（355人、81.2%）、保育所等の職員（305人、69.8%）、知人・友人（199人、45.5%）の順に多い。（複数回答）

（2）放課後等デイサービスに関するアンケート

- ・対象者 3,310人、回答数 1,618人、回答率 48.9%
- ・障害者手帳の取得状況については、療育手帳所持者が多く（1,427人、88.2%）、91.6%が何らかの手帳を所持している。

① 放課後等デイサービスを利用しているのは 69.9%（1,131人）で、1人あたりの平均利用日数は 4.0日／週。

- ・複数の事業所を利用している者は 44.2%（500人）。
- ・現在の利用については満足している者が多い（933人、82.5%）。利用希望日数は現状通り（964人、85.2%）、もしくは利用日数を増やしたい（142人、12.6%）者が多く、いつまで利用したいかの問いには「高校卒業まで利用継続したい」が最多で 720人（63.7%）おり、ニーズの高さが伺える。

② 利用していない者のうち利用希望があるのは 39.1%（176人）。

- ・利用していない理由では、「家庭で過ごさせたい」が最も多く（124人、27.6%）、次いで、「学校等で支援が受けられる」が多くなっている（103人、22.9%）。（複数回答）

③ 保育所等訪問支援については、制度を知らない者が多い（1,098人、67.9%）が、22.7%が利用してみたいと回答した。

- ・障害児相談支援事業については、事業を知らない者が多い（1,082人、66.9%）が、約 3割が利用してみたいと回答した。
- ・子どもの発達についての相談先は、家族・親族（1,115人、68.9%）、知人・友人（754人、46.6%）、医療機関（712人、44.0%）の順で多い。（複数回答）

5. まとめ

児童発達支援に関するアンケートでは回答者のうち半数以上、放課後等デイサービスに関するアンケートでは約 7割の児童がサービスを利用していた。利用者のサービスに対する満足度は高く、利用継続を望む者も多い。また、現在利用していないと回答した者の中にも、利用意向のある者が高い割合でいることが分かった。

以上のことから、児童発達支援・放課後等デイサービスについてニーズが高いと考えられ、今後も利用者数、延べ利用日数は増えていくものと推測される。

一方で、保育所等訪問支援や障害児相談支援については、制度を知らない者も多く、事業所数が少ないこともあり、周知の課題があることが分かった。